

2016年11月 会社の雰囲気を1W^{7分}明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/佐之

人が輝く時とは…？

先日、埼玉県の知人でライフクリエイートの代表 山口和宏さんを訪問させていただきました。ライフクリエイートさんは障がい者の方にヘルパー派遣をする事業を行っている会社です。代表である山口さん自身が重度の障がい者です。約20年前の18歳の頃、友人の運転する車で交通事故にあい脊椎を損傷しそれ以来、身体の胸から下が不随になってしまわれたそうです。リハビリの結果、左腕が動くまでになったものの、コップも、筆も持てない状態です。山口さんご自身が24時間介護を必要とする状態で起業されています。



山口さんとは経営者が集まる会で知り合い、一度ゆっくりお話ししたいと思い、ご訪問させていただきました。そこで、事故から今日に至った経緯を聞かせていただきました。

事故後6カ月は意識不明で、そこから7年に渡って寝たきりの生活を送ってこられたそうです。その間は自分とそしてあらゆる壁との闘いと言えるでしょう。特に起業されるに至った理由は、私にとってもショッキングなものでした。障がい者として役所に「週に1回のシャワーを週に2回にして欲しい」と要望すると「あなただけが障がい者じゃないし、あなたに既に毎月50万円以上を負担している」と何度も言われたそうです。要望といっても私たちの日常からしてみると普通の生活以下の要望です。そのような体験が「税金で生かされている立場から税金を納める側になりたい」「自分と同じような障がい者の方々の役に立ち、税金を納める側になりたい」と事業を開始された原動力だと話してくださいました。山口さんはパソコンのキーボードを打てないため、棒を口にくわえて操作しドキュメント作成をしています。その横にヘルパーさんがいらして喉の渇きを潤すために時々、お水をあげたりされています。そんな光景を拝見すると「どんな理由、きっかけであれこの状態で起業するとはすごい原動力だな」と思わずにはいられません。また私にこんなことも山口さんは話してくれました「丹羽さん、僕はこうやって人と話せる喜びを一番知っているのですよ。だって7年も寝たきりの天井しか見ない生活していたのですから」。

山口さんの目はとても澄んでいて、胸から上の写真だけ見たら「とても障がい者には見えな、健常者以上に明るい輝きを持った人だ」と多くの人が思うはず。そんな山口さんだからこそ、多くの人に夢と希望、そして心を豊かにするきっかけを与える、山口さんにしかできない影響力を発揮してくれる存在になるでしょう。

山口さんの目の輝きは、人が誰かの役に立てることの幸せ、また**どんな状態でも人に社会に貢献できること**をズバリ教えてくれるものでした。